

# 外部から見た駒沢女子大学の 取組について

東海大学理学部教授  
同大教育研究所所長

安岡 高志 2007.2.20

# 大学審議会

1998/10/26 答申等

21世紀の大学像と今後の改革方策について  
競争的環境の中で個性が輝く大学  
(答申) (平成10年10月26日 大学審議会)

単位の充実による問題探求型の人材育成

# 東海大学の教育改革

## 卒業単位124単位(1993)

シラバスの導入(1993)・・・平成16年99%

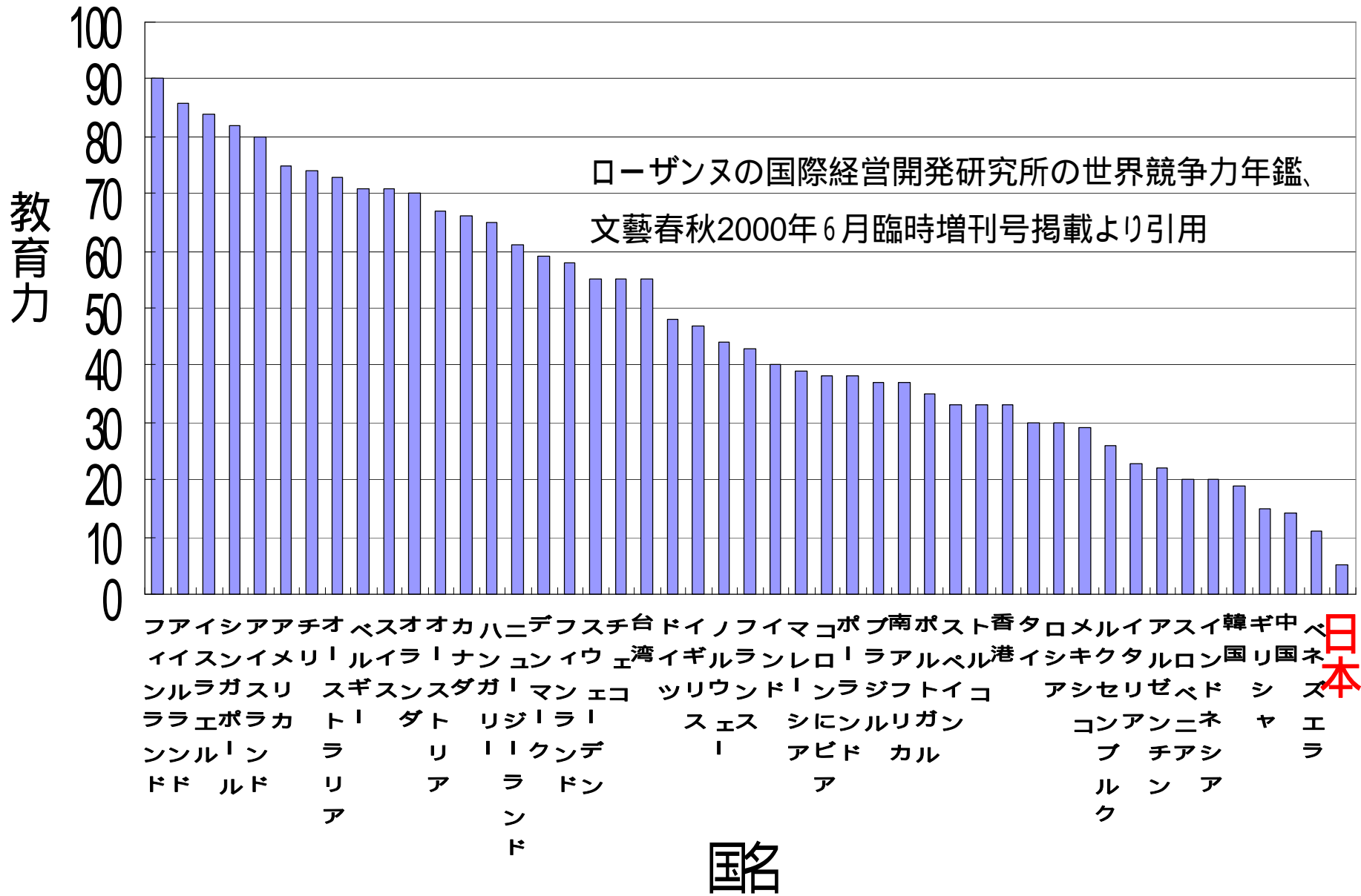
学生による授業評価(1993)・・・・・・・・97%

セメスター制度の導入(1997)・・・・・・・・85%

キャップ制度の導入(1997)・・・・・・・・62%

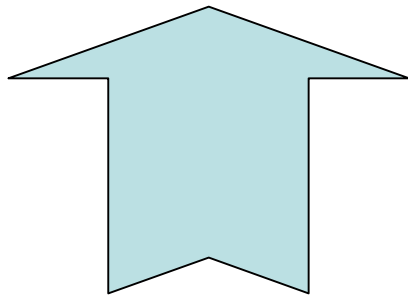
## 組織的教育体制の構築(1998)

GPA制度の導入(2001)・・・・・・・・28%



大学教育力は国際経済競争に対応しているか

# 達成目標を定める



達成するために必要な  
システムを構築する

# 具体的達成目標

## 学生に1日8時間勉強

単位の充実に関する評価基準

単位の充実については評価基準を次のように定める。一日8時間学修する割合が

70%以上の場合評価を 5

60～69% 4

50～59% 3

40～49% 2

39%以下 1

# 化学科一日学修時間調査結果

	2000年度	2001年度
一般教養	0.2時間	0.3時間
外国語科目	0.4時間	0.5時間
実験科目	2.4時間	2.2時間
体育科目	0.04時間	0.1時間
専門科目	1.1時間	1.3時間
他学部・他学科	0.2時間	0.4時間
その他	0.08時間	0.01時間
合計	4.4時間	4.7時間

## 単位の充実に関する評価結果

ある大学の化学系の学生の平均履修単位数(2002年度)は19単位であり、1週間で授業を12回程度受講、一回の授業を2時間とすると学生は1日4時間授業を受講。

教室外の学修時間の調査結果4.7時間学修。当大学の学生は一日平均8.7時間学修

8時間以上学修していた学生の割合は52.3%であり、評価は3となる。

# 授業評価の歴史

1960年代後半のアメリカで一般化。大学側や教授団側の権限に対して、学生側の消費者としての権利を主張。約20年前から積極的に教員評価の資料

## 日本

1974年国際基督教大学(ICU)

1984年東海大学

組織的導入

1988年国際基督教大学、

1990年の多摩大学と慶應義塾大学のSFC

1993年の東海大学

平成10年10月26日 大学審議会において、FDが謳われて以来急激に増加平成16年度(2004)97%以上の大学が何らかの型で導入

# 授業評価の性質

学生の成績、在学年数、学問的能力と授業評価の結果は無関係

受講者数30名以下で高くなる

担当科目・年度が変わっても安定

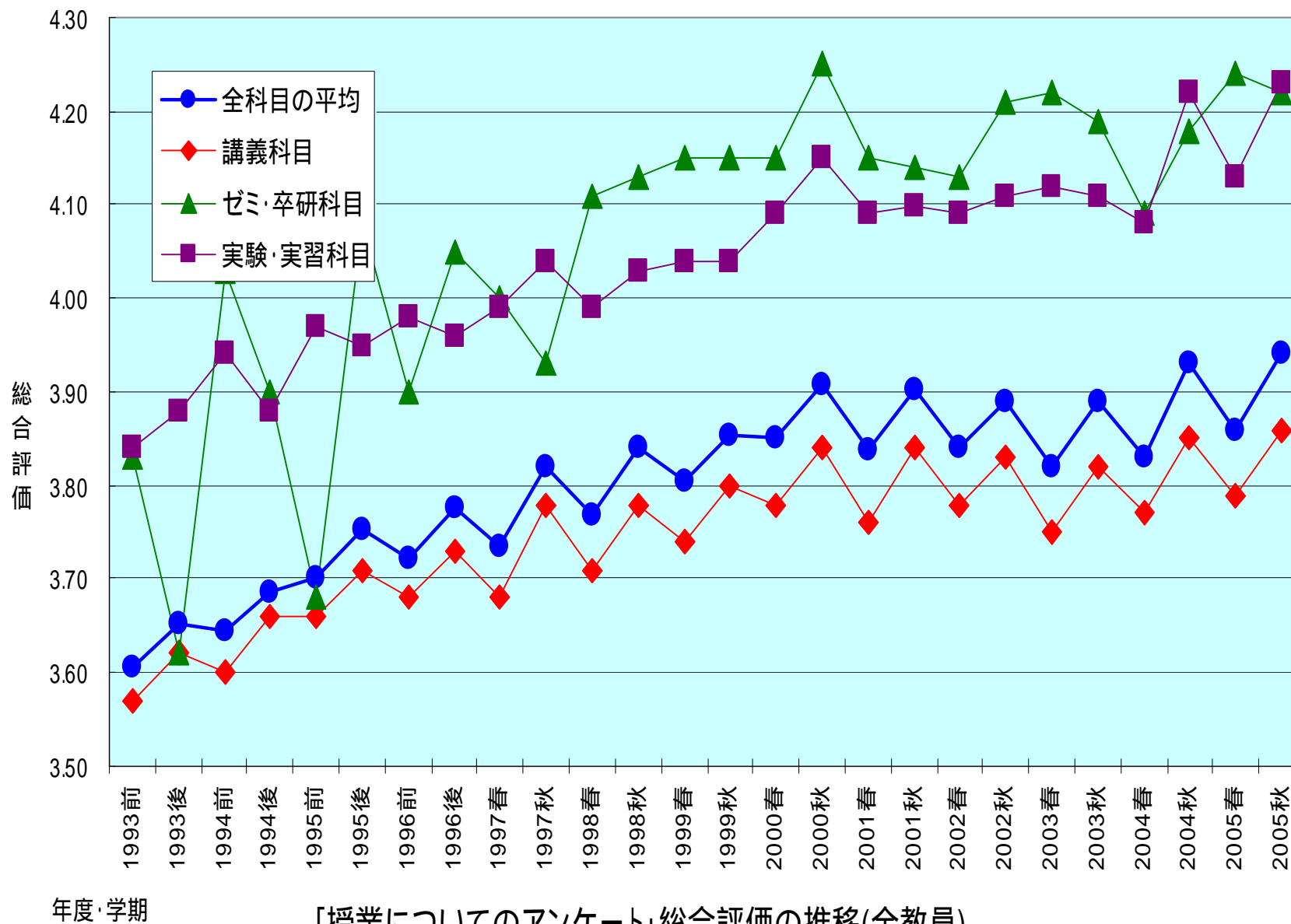
文系教員よりも物理科学系の教員が低く評価される

研究と教育は表裏一体、車の両輪は嘘、研究能力(論文数)と授業評価は無関係

年齢と共に評価が低くなる

## アメリカの報告

授業評価と学生の学習や到達度の間にはゆるい相関(日本では予備校で同じ傾向)

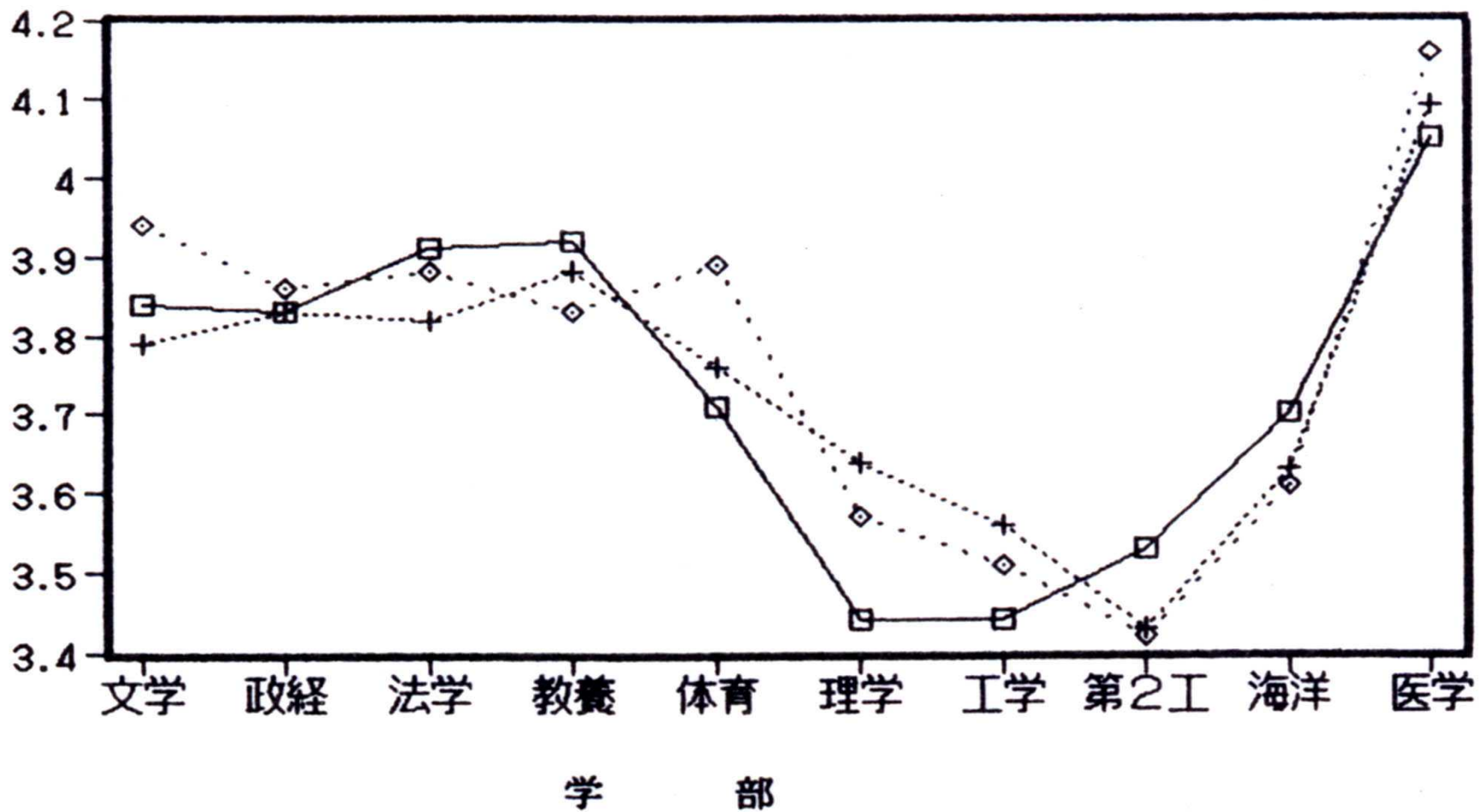


「授業についてのアンケート」総合評価の推移(全教員)

2005 Tokai University Educational Support Department

# 総合評価

総合評価



□ : 93 年度前期

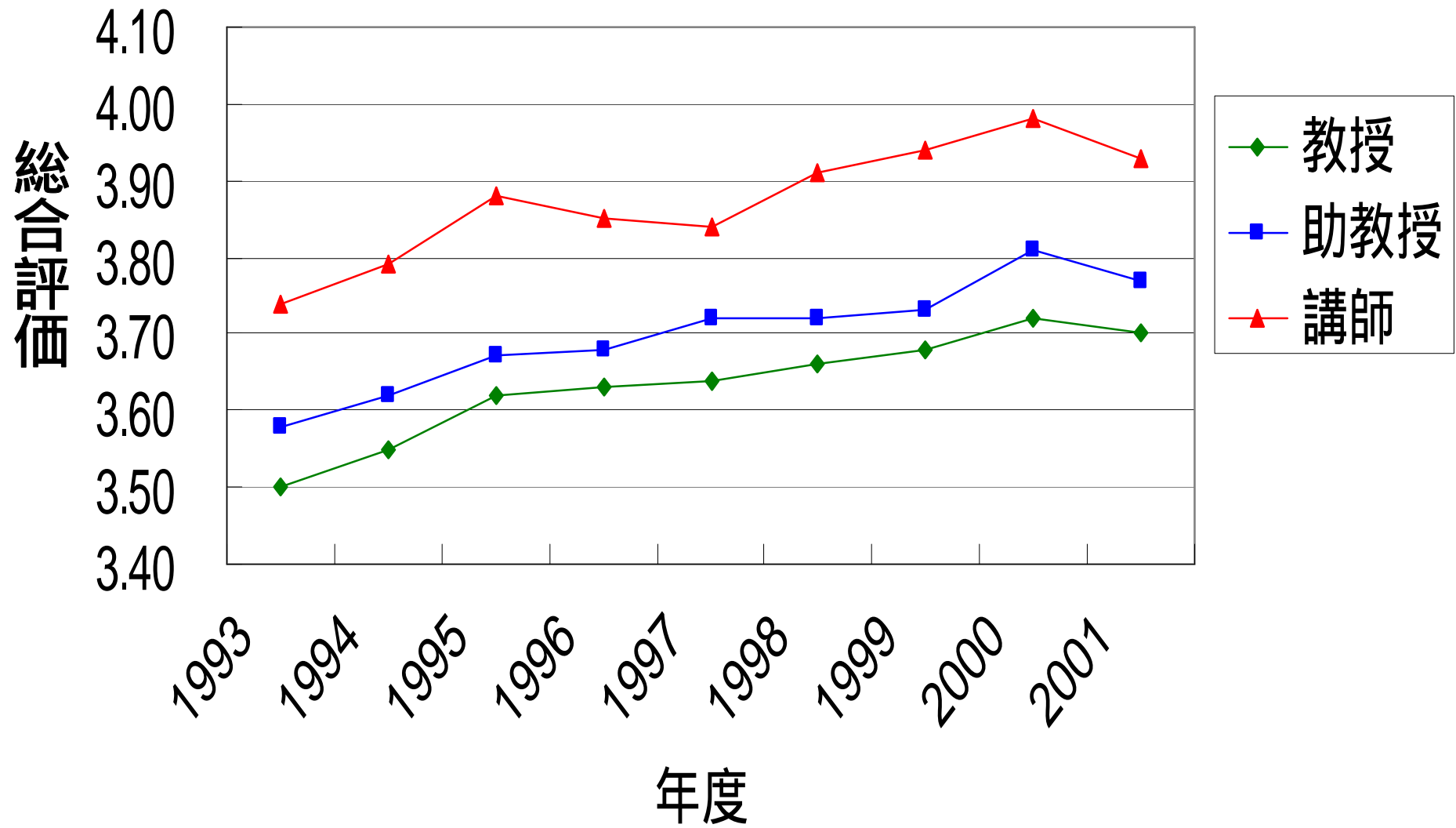
+ : 93 年度後期

◇ : 94 年度前期

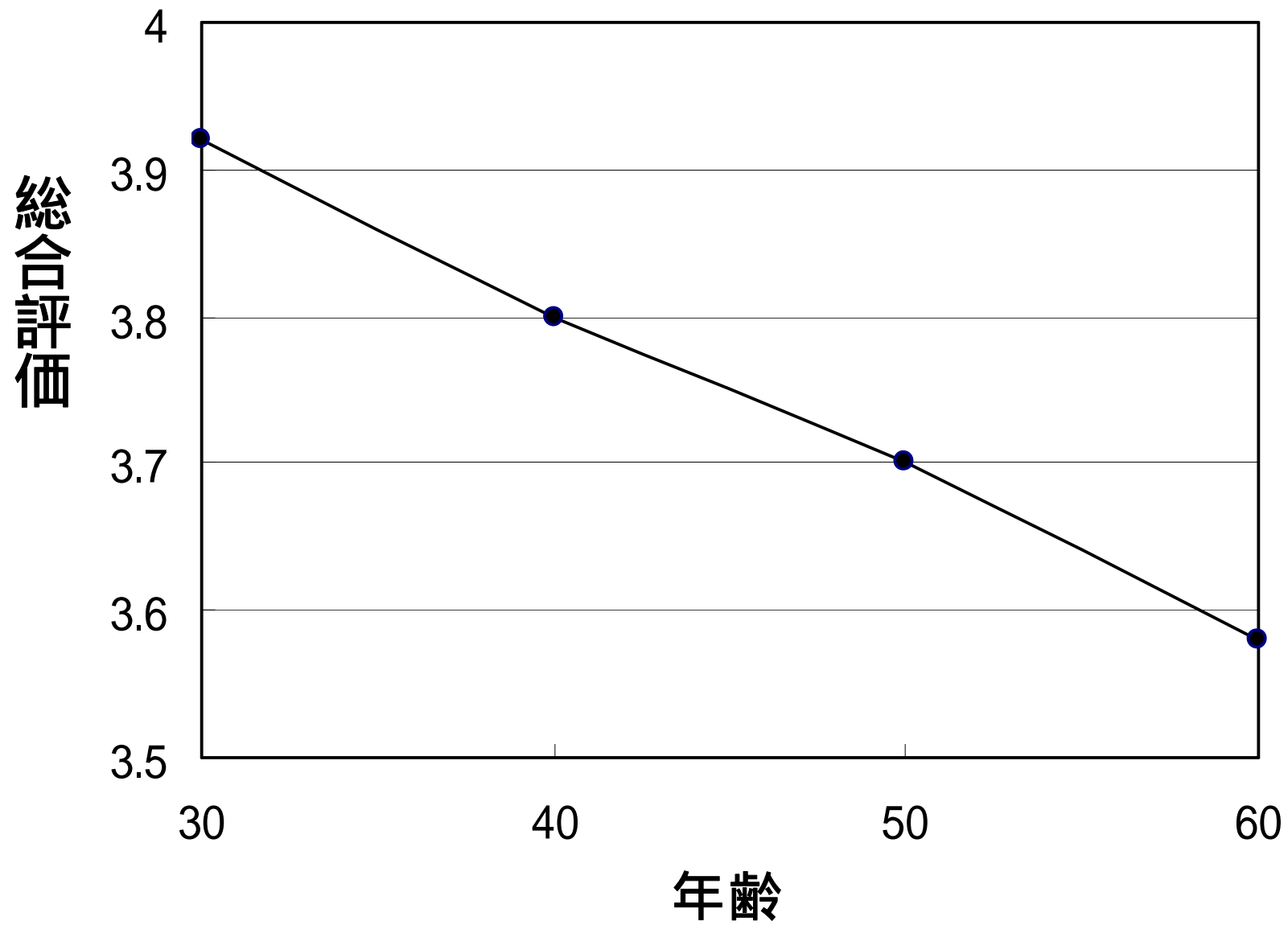
学部開講別評価

## 研究分野と論文数の関係

分野		医学	理学	工学	社会科学	文学	その他
論	1						
	2						
	3		数学			語学	体育、家政学
	4	歯学				哲学	
	5		物理				
文	6			機械、電気、造船	経済、心理、教育学		
	7		化学、生物学	土木	社会学	文学、史学	
	8	社会医学	応用物理、薬学		法学		
数 【 五 年 間 】	9		地球物理、生物化学	建築			
	10		生物物理				
	11						
	12						
	13	外科、内科					
	14						
	15						

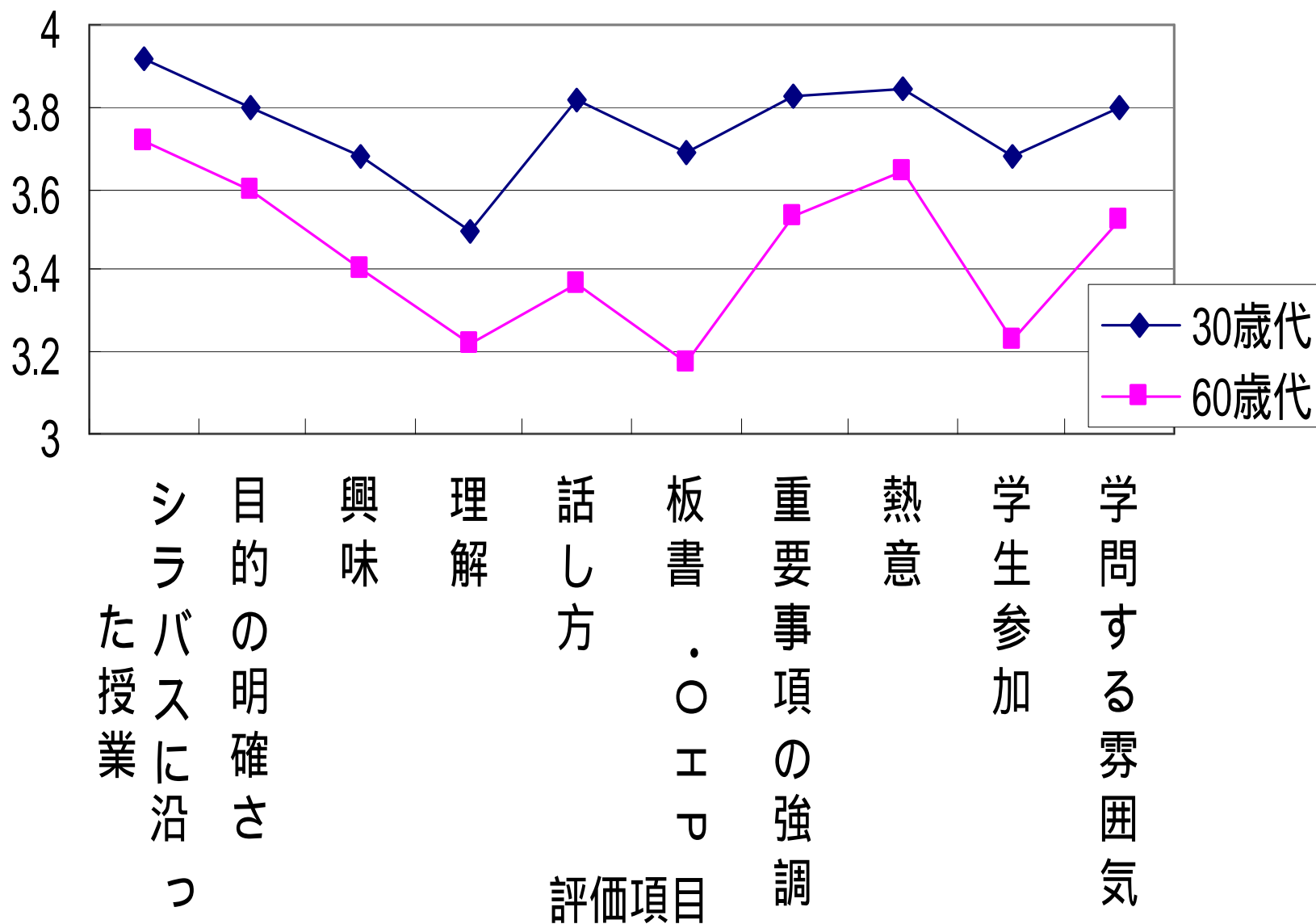


授業評価における教員身分別評価

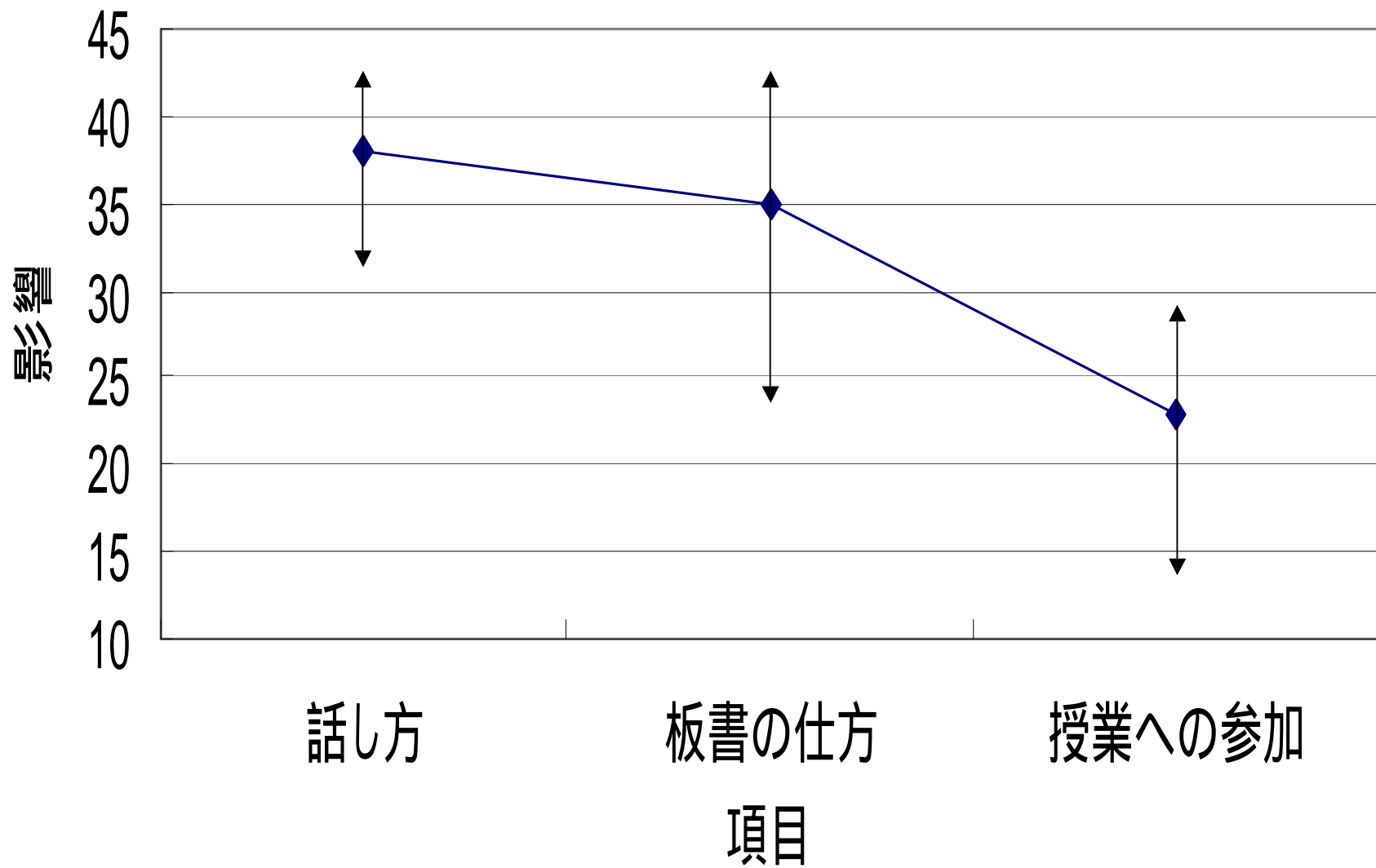


# 年齢別評価

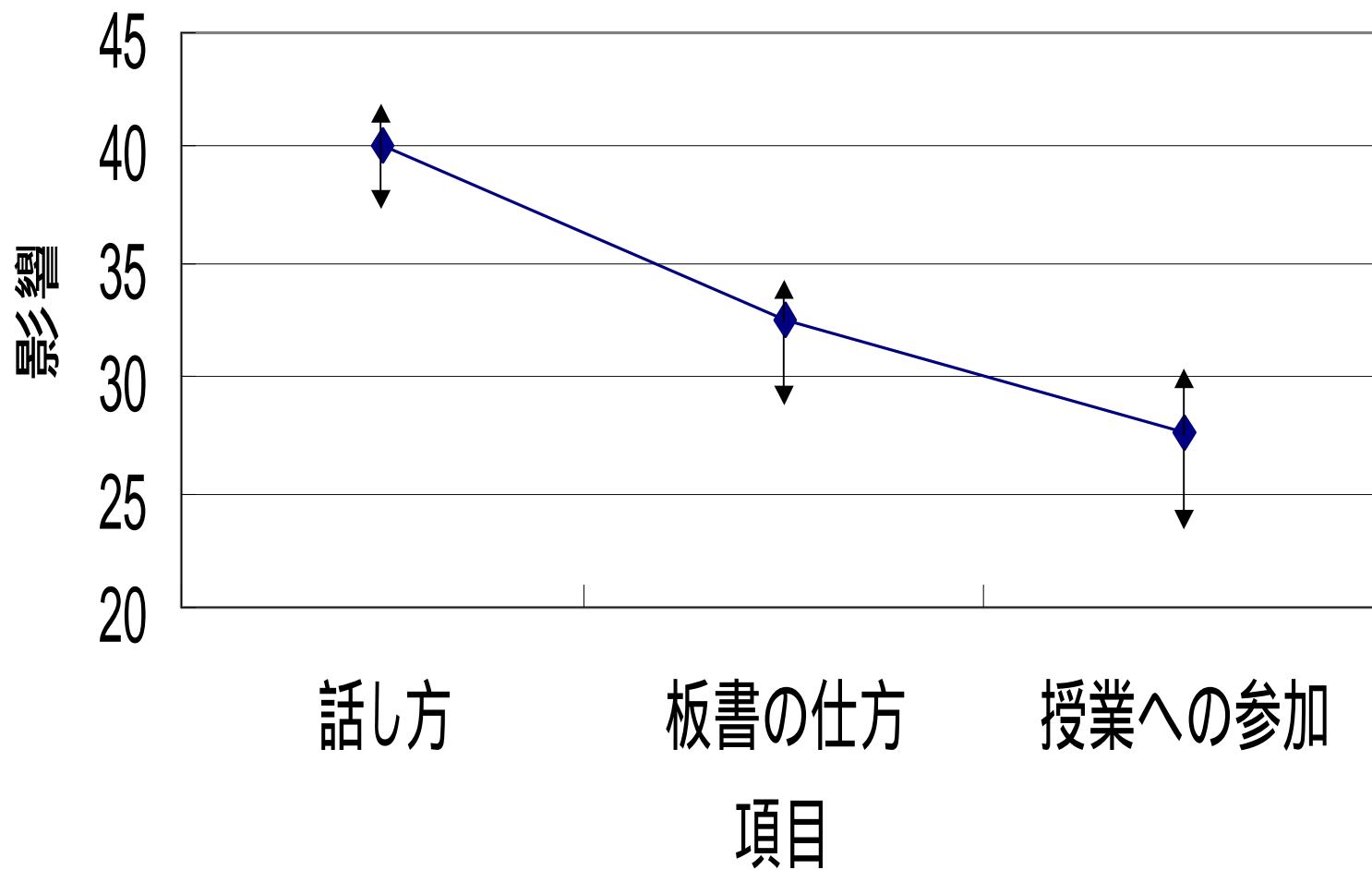
# 総合評価



30歳代と60歳代の評価項目毎の比較



授業評価の総合評価に及ぼす項目の影響



年齢差の大きい項目の順位

## ○聖書の朗読と組み合わせる——ある教員の例

私は話し方のレッスンを教会における聖書の朗読と組み合わせ、好結果を得ています。別の教官は夏休み期間中にキャンパスで演技のクラスを受講し、教室での話しぶりが改良されたのみならず、自分自身その演技のクラスを十分楽しんだようです。

## ○家族で戯曲を読む——何人かの教員の例

われわれは詩の朗読グループに加入することを勧めています。詩の意味を明確にするためには声の抑揚を大きく変えることが必要なので、声を出して詩を朗読することは、特に有用だろうと思います。友人や家族と声を出して戯曲を読むことも、話し方を多様性に富んだものにするための楽しい訓練の方法の1つです。

## 年齢が高くなるにしたがって、見られる傾向

理解できない言葉を多く使用する傾向がある・・・27%

話し方が単調になる傾向がある・・・・・・・・・・23%

同じことの繰り返しが多くなる傾向がある・・・・・・・・19%

書く量が少なすぎる傾向がある・・・・・・・・・・35%

まとまりのない書きかたをする傾向がある・・・18%

早く消す傾向がある・・・・・・・・・・・・・・・・16%

「今の学生は聞いてまとめることができない」

授業は知識の伝達手段である傾向がある・・・24%

学生に興味を示さなくなる傾向がある・・・・・・・・17%

質問しにくい雰囲気が強くなる

## 授業で若い教員と年齢の高い教員が異なる点

- ・生徒がどこを教えて欲しいか若い教員の方が理解している。
- ・若い教員の方が、比較的明るい雰囲気です。
- ・若い教員の方が学生の気持ちを理解しながら話してくれる。
- ・若い先生は何回も丁寧に教えてくれるが、年齢の高い先生は、一回ちょっと言ったきりもう言わなかったりすることが多い。
- ・年齢の高い教員の話は意味がわからないことが多い。
- ・年齢の高い先生は、ボソボソと話したり、黒板に単語しか書か

な

かったりすることが多い。

- ・年齢の高い教員の授業は単調になることが多く、リズムが悪い。
- ・話題の共通性があり、若い先生の方が心が通じやすい。
- ・授業の始まる時間が、年齢が高くなるにつれて遅くなる。
- ・授業への引きつけ方が若い人の方が上手である。

全体として、若い教員の方が優しく、丁寧に、学生の反応を見ながら教えるようである。

# 授業以外で若い教員と年齢の高い教員が異なる点

- ・若い教員の方が接しやすい。
- ・若い先生は優しい。
- ・年齢の高い方が**疲れている**。
- ・年齢の高い教員は、なんだか自分の意見だけを主張して学生の意見を聞いてくれない。
- ・若い先生は授業以外で何か聞いてもしゃべってくれるが、年のいった先生は**なんだかだるそうにする**。
- ・年齢が高くなればなるほど、学生との年齢、世代が異なるため考え方が異なる。
- ・年齢の高い教員は、生徒を授業の中だけであしらい、道であっても話しかけてくれない。
- ・**動作が鈍くなり、体力的なところが異なってくる**。
- ・年齢の高い教員の方が、話すと面白い。

全体としては年齢の高い教員は授業のみで学生と接しており、疲れているようである。

# 年齢の高い教員への学生からの提言

学生の参加できる授業環境をつくれ。

学生を見下すな。

愚痴をこぼすな。

学生の変化に対応しろ。

略字を使うな。

テンポが悪いぞ。

脱線の話が面白くないぞ。

自分だけ納得する授業をするな。

以上の結果から、授業評価の  
集団としての意見や結果は信頼  
してよい

主観も客観的評価と同様に必  
要である

達成目標によっては主観的評  
価でしか測定できないものもある

# 自己点検・評価におけるPlan で決定しておくべきこと

第一に決定すべきことは：「何を実現したいのか」 **具体的目標の設定**

第二：目的達成に「行動目的を何にするか」 **(共通認識の決定)**

第三：「目的達成を何で測定するか」 **評価指標の決定**

第四：「評価基準」 **基準の状態を決定**

学園の授業目標

科目を好きにさせる

読み書きが出来る

# リーダーシップの取れる人材育成

## リーダーの条件

何をすべきかを示せる

抽象的なことを分かりやすく説明

評価指標を示し、評価を行うことが

出来る

システムの導入よりも人  
材育成の人間像決定が  
先決である

(教職員・学生)

# 達成目標の共有・共通認識の醸成

(高橋俊介、慶応義塾大学大学院)

多様化しているときに、意図的に概念を浸透させるという**愚直な努力に手間暇**をかけることが必要

## 加賀屋の品質方針（ISO9001）

**接客マニュアルを超えた**、心づくしのおもてなしが、加賀屋の伝統です。

### **お客様の期待に応える**

お客様のご要望に対して、万全のお応えをする姿勢でサービスを提供します。

### **正確性を追求する**

お客様の望まれること（時、物、心、情報）を理解し、正しくお応えします。

### **おもてなしの心で接する（ホスピタリティ）**

お客様の立場に立って思いやりの心で接遇します。

### **クレーム0をめざす**

お客様からのクレームがなくなるよう、予防と是正を心がけ、断続的な業務改善に取り組みます。

## 安岡総合評価

大学改革とは制度を導入することではなく、日常生活を変えることである。この主旨に沿ったよいプログラムである。

自前教科書はこのイメージに最も近い

特色GPの評価の視点

学生の成長、変化、効果

みんなが汗水流しているか

# 駒澤女子大学の評価指標の特徴

目標達成の必要性を重視

主観的評価を重視

人が評価を下す方法を採用

## 大学社会の常識

測りやすいものを測定する

客観的指標となるものを測定

文句がつけられない指標を測定

「**どのように生み出す大学の魅力**」という題目の講演を学生である私が視聴することにどんな意味があるだろうかと思っていました。

しかし、実際聞いてみるととても面白い内容でした。いままで、曖昧に何となく流していた部分を的確に指摘しており、納得するところがいくつもありました。反面苦笑するところも多々ありましたが…。

大学の魅力を生み出してゆくのは先生方だけではなく、そこで学びを得る学生もその役割を担っており、共に発展していかなければならないのだと感じました。大学で学ぶことをもっと主体的にゆきたいと思いました。

ありがとうございました。

## 評価指標

本学の発展のために寄付をするつもりがありますか。

本学を後輩に勧めたいと思いますか